明石のコミュニティ・スクール
未来にむけて 学びをかえる
未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

Twitter
YouTube

# KomiKomiSukuSuku

For The Future
No.249
2023
12.11

明石市教育委員会事務局学校教育課　mail：gakkyo@city.akashi.lg.jp

## 二見北小学校６年生「町の未来を描こう」を通して“わたしたちのまちづくり”

１２月１日（金）、二見北小学校で６年生が「自分たちで考えたまちづくり」を地域の方や保護者の方に聴いていただく場が設けられました。その様子が届きましたので紹介させていただきます。

各クラス６～８班、全ての班が発表してから全体の感想を参加された方々にお聴きする、というスタイルでおこなわれたようです。

子どもたちが「わたしたちのまちづくり」について各グループで考えたテーマです。

| | １組 | ２組 | ３組 |
|---|---|---|---|
| １班 | 人の交流で、人の気持ちがわかる町 | 二見のごみ拾い大作戦⁈ | 神社での出会いを通して、笑顔あふれる町 |
| ２班 | 生き物について考えられる町 | 地域コミュニティーを make up! | 笑顔あふれる土山駅 |
| ３班 | いじめなどで困っている人がいたら、助けてあげられる町 | みんなで楽しく体力 up | きらきらさんでみんなが笑顔 |
| ４班 | 子どもから高齢者までの全員が楽しめる町 | コミュニティタウン | パティスリー・クリ<br>～人と人とのつながり～ |
| ５班 | ゴミ拾いとカーニバルで作る人とのつながり | DIY in Nature | 公園を楽しくきれいに |
| ６班 | 年齢関係ない交流の場で人と人とのつながりが生まれる町 | Enjoy! クラフト | 大歳神社と町のつながり |
| ７班 | ペットでつながる交流の輪 | | |
| ８班 | 交流が多く事故のない町 | | |

「町の未来を描こう」は教材文として「町の幸福論―コミュニティデザインを考える」を読み、自分たちでも、自分たちの町の未来について考えたり調べたりしてきたことを、プレゼンテーション等で伝えていこうというのがこの単元の大きな柱です。しかし、二見北小学校では No.241 号でご紹介したようにその柱に外国語活動ともつなげて、二見の良いところを ALT に伝えるという活動もプラスされています。子どもたちのチャレンジだけでなく、先生方も教科横断的なカリキュラム・デザインにチャレンジされたのではと思います。何よりも子どもたちは国語科での学びの

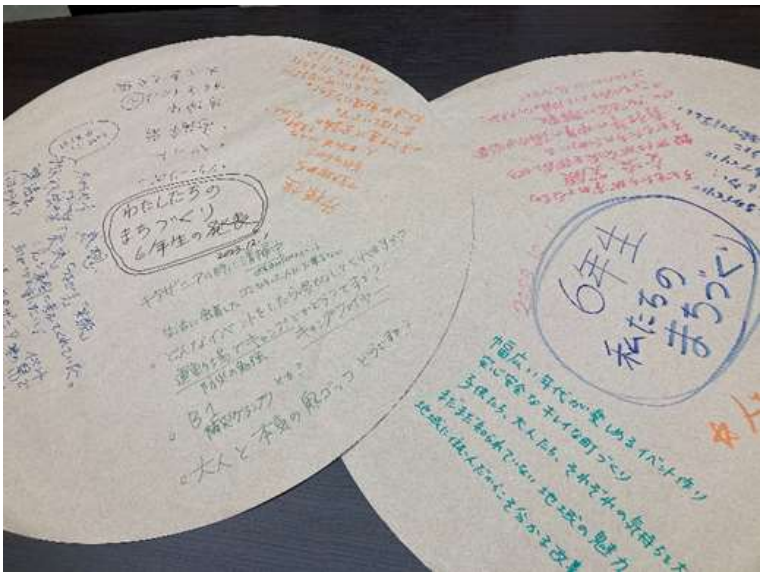
中でも、外国語活動での学びの中でも、自分たちの地域に目を向け、二見北の現状や課題、そして、どんな町づくりをめざしていくかについての対話が熱かったのではと想像します。そのことが、地域の未来を考える各グループのテーマに表れているのではと思います。

　そして何より全グループが地域の方や保護者の方にプレゼンし、意見を貰えたことが、子どもたちだけでなく、参加された方の当事者意識も高めたのではと考えます。そんな参加者の方からは次のような感想が聞かれたようです。

・みんながまちのことについていろいろ考えていることに感心した。
・「交流」「つながり」「笑顔」をキーワードに地域のことを真剣に考えてくれていた。
・大人こども会議をやりたい。
・まち協会議に出てほしい。
・中学校、高校へ行っても、まちのことを考えていってほしい。

　そして、参加された方々は子どもたちから非常に刺激を受けられたようでした。

　またまちづくり協議会さんからは、「公園マップ」を作成したことや、商店会の方を中心に長年実施されている「キタザニア」について、子ども達の前で熱く語られるなど、子どもたちにとっても地域の大人のパワーを感じ取るなど、子どもにとっても地域や保護者の方にとっても刺激的な時間だったのではと思います。




　参加された地域や保護者のみなさんは、子どもたちからのプレゼンを聴いた後、子どもたちのプレゼンを受けて、“えんたくん”を使って感想等の交流をされたそうです。子どもたちの提案を真剣に受け止める二見北小校区のみなさんのパワーとやさしさを感じます。子どもたちがこの“えんたくん”をみたらどんなことを感じるか想像するだけでも楽しくなります。きっとこの“えんたくん”は６年生の子どもたちが目につくところに掲示されているのではと思います。この“えんたくん”は発信者である子どもと、受けて側の地域のみなさんをつなげるツールでもあるんだなと感じました。

　今回の子どもたちの提案、そしてこうした対話の中からどんなことが生まれてくるのか楽しみです。

　年度当初に考えたカリキュラムに新たなことや修正が加わることはどちらかというと避ける傾向があります。やってみると修正等変更がでてきてあたりまえで、学習指導要領でカリキュラム・マネジメントが強調されているのは、子どもの状況に応じた修正等見直しながらよ

り良い学びの場を創っていくことを求めているからだと考えます。そんなカリキュラム・マネジメントにも踏み込まれたのではと思います。

今回の活動を通して、６年生の先生方は次のような感想を持たれています。

・コロナ禍でできなかった誰かに発表する、プレゼンテーションをおこなう、ということに取り組むことができ、児童がプレゼンを作り、他のグループの内容に助言し、完成に向かっていく姿が見られて良かった。発表時には大人の方の前に立ち、堂々と内容を説明する姿があった。自分のまちのことなので、プレゼンテーションに説得力をもたせようと、タブレットを持ち帰ったときに実際の様子を撮影してきたり、御厨神社など校区外の遠い場所についてはグーグルマップを活用したりするなど、自主的な活動が見られた。

・外国語科の学習とつながっていることもあり、子ども達は、伝える相手に分かりやすく工夫することを意識してプレゼンテーションに取り組むことができた。やり切った達成感をもっていた。

・10 月にまち協の会長の方に来校いただきまち協について話をお聞きした時から「やってみたい」と意欲的に取り組み、テーマを決め、話し合い、資料を集め、プレゼンテーションを作成し発表することに活発に取り組む姿が見られた。リーダーを決めていたが、他の子たちも自分がやるんだという意識をもって、トライアンドエラーでレベルアップしながら取り組んでいた。まちづくりについて皆さんに聴いてもらう、ということに自分たちで納得して、実感しているところが本当に良かった。

「町の未来を描こう（町の幸福論 - コミュニティデザインを考える）」をきっかけに、子どもたちが考えたコミュニティデザインを地域の方に聴いていただく場を設けたり、対話をおこなってみる学校が増えてきています。子どもたちが様々な教科で身につけた力を使って、社会とつながっていくカリキュラム・デザインが始まってきているんですね。

二見北小学校の先生方の感想から、子どもたちだけでなく、先生方も達成感を感じておられるように感じました。国語科だけでなく、外国語活動とも連携させたチャレンジ、地域の方へのプレゼンするチャレンジは子どもだけでなく、先生方のチャレンジでもあったと思います。子どもたの活動する姿をみて、普段の学習とは違った面を感じ、先生方は「けっこうやるやん！」と感じられたのではと感じます。それは先生方だけでなく、地域の方も感じられたのではと思います。こうした場が積み重ねられていくことで、「子どもを信じて、子どもに任せて、子どもを支えていく」といった機運が学校にも地域にも共有されていくのではと思います。

今回６年生が踏み出した一歩は、来年はさらにアップグレードされて今の５年生に引き継がれていくのではと思います。毎年アップグレードしていくところに、カリキュラム・マネジメントの意味があるのだと思います。

今回の提案が提案で終わらずに、一つでも具体的なプロジェクトが立ち上がっていくと面白いなと勝手に妄想しています。

（文責：北本）